

みちこだより

(日本共産党・笠岡市議会議員 ひのつ倫子)

自宅住所〒714-0055笠岡市生江浜965 Tel&Fax66-1738 携帯090-2862-4775

2003年 1月 No. 11
日本共産党笠岡市議団発行
〒714-0081 笠岡市笠岡5945-12
Tel63-6001 Fax62-5753

今年も
がんばります



今年もよろしくお祈いします

旧年中は大変お世話になりました。お礼とともに新年のお喜びを申し上げます。議員生活3度目の春を迎えました。まだまだ未熟ですが、皆様のご指導をおおきながら今年も精一杯頑張っていきたいと思っています。どうぞ昨年にも増してよろしくお祈いいたします。遅くなりましたが、12月議会報告「みちこだより」(No.11)を届けします。

義務教育の国庫負担制度の改正について

この制度は義務教育費にかかわる国の財政責任を定めた制度で、公教育を守り、発展させていく上で欠かすことのできない制度です。ところが政府は「構造改革」のもと、「地方分権」としてこれを見直し、廃止しようとしています。

そうなれば、義務教育の内容や水準がすべて地方自治体任せになり、義務教育に「地域格差」が生ずることになります。

憲法、教育基本法、子供の権利条約など法に照らし合わせても違法で、公教育の否定につながるこのような動きに対して市長の考えをたずね、問題点を広報で広く市民に知らせるべきと質問しました。

市長はこれに対し、「関係方面へ働きかけていく、6月には意見書をあげた、広報は教育委員会と協議しながら考えていく。」と答えました。

老人医療費の改正について

1973年1月から国が実施した、70歳以上の医療費の自己負担分を公費による現物給付とする制度は画期的な施策でした。その制度に込められていた精神は、定年まで仕事をされ、家計を支え、日本の未来、経済を築き上げられた方々に、「老後は安心して、健康で長生きしてください。病気になったら安心して治療を受けてください。」という医療制度でした。

しかしその後改正につぐ改正が行われ、お年寄りへの個人負担は定額から定率へ、高齢者の年齢に至ってはとうとう75歳に引き上げられました。10月1日から実施されたこの施策のもとで、今県下では、たとえば肺気腫の患者さんで、酸素使用の在宅治療の方が一カ月850円から10850円に自己負担が跳ね上がり、「もうわしは酸素はいらん」と病院を後にしたそうです。

又地域のあるお年よりの方が「私はおじいちゃんに、『70歳になったら医者代が安くなる頑張ろうな』と励ましてきた。もう励ます言葉もない」と言われてました。

こうした実態を市長はどう思われるのか、また限度額を超える分の償還払い申請制度について、うっかり忘れてたり面倒な手続きなどを解消させるため、窓口での現物給付(無料制度)の導入をと求めました。

市長は今回の医療制度の改正が、個人負担の増額につながることは理解しているとしながらも、「現時点で、そのような声を聞いていない。」また限度額以上の医療費、窓口で無料とすることについては回答はなく「償還の申請漏れのないよう通知したり、市役所窓口でのていねいな対応などで、笠岡市は県下10市の中でも勸奨の度合いは高い」という答弁のみでした。申請を忘れれば返らずという問題点を残したままです。

以上2項目にわたって12月10日個人質問を行いました。私は地方自治体が憲法に保障された諸権利を守るとりてとなることを強く求めて、今後も頑張っていこうと思います

総務文教委員会

2つの問題点について質問しました。

① 飛島の中学校統廃合

教育委員会は地元と合意し、16年にスクールポート建造の予定、15年4月から神島外中学校と統合すると発表しました。

私は、統合問題は島の人口減を促進し、島の振興に逆行してきたことを再度指摘し、今回の合意も保護者中心の話し合いで、地元説明は決定を伝えるのみ。しかも2年ぶりの会合とあっては島の人達の意見を十分反映したものとはとても言えないと、教育長の見解を求めました。

しかし、人口減を促進した事実を棚にあげ「15年度の中学生が2名になるということ」で保護者も統合に合意、島民の方との話し合いを持ち、理解を得た。審議会には島の代表も入っている」との答弁でした。

10日、個人質問終了後、老人医療費の改正に伴って、母子医療費給付条例を定額から一律に定率へ、と改正する条例案が上程されました。私は質疑と反対討論に立ちました。

先の臨時国会で、母子家庭の生活を支える児童扶養手当がバツサリ削られる法改正が行われました。その上今回の医療費まで定額から定率へ改正となれば、2重の負担増を強いられることとなります。

特に非課税世帯の母子の命、生活にかかわる問題であることから、非課税世帯を対象とせず、市独自の救済措置をと求め、この条例案に反対しました。

これに対し市長は答弁で「重すぎる負担は問題だ」としながらも「県の条例に基づく改正であり、関係機関への働きかけは行う」との答弁のみで、市独自の施策は示しませんでした。採決では賛成多数で可決されました。

私は今後とも母子家庭の暮らしと命を守るために、継続して働きかけていく決意です。

私は飛島では地元の人達の納得のいく船の建造などと、他の島では中学校問題において島の振興とともに教育の発展を模索するよう求めました。この観点で今後も頑張っていくつもりです。

② オープンスクール

地域に支えられ、開かれた学校作りをめざしたこの取り組み、昨年度は大阪教育大学付属小学校の事件後の実施案に対して ①教職員の論議不十分、②地元、地域への理解が不十分③安全性の問題が残るという点で強硬実施には問題ありと反対しました。それであっても実施期間中は15校を訪れ、応援してきました。

ところが今年は広報もされず、関係者への案内も不十分でした。これでは何のためのオープンスクールなのか疑問が残ります。この



取り組みを、年間の取り組みの集大成として位置付け発展させるよう求めました。

教育委員会から、「各校の自主性重んじて実施したが広報は不十分だった。来年はさらに協力を求めていく」と答弁がありました。

私は今後とも学校、地域のみんなで子供たちを育てるという観点から、この取り組みを支えていきたいと思えます。

米価の暴落と減反拡大につながる外米輸入の削減・廃止を求める請願を採択するよう求めましたが、不採択となりました。

10/18・19 グループホーム国際サミット
通訳のお手伝い。

10/23-25 総務文教委員会視察
群馬県、太田市・伊勢崎市

10/31-11/1 中央小、金浦小・中学校のオープンスクールに参加

広報も通知もなかったのが、他校へ参加する時間がとれず残念。

11/3 金浦地区民運動会
地区の人達と力を合わせながら、快い汗。

11/5 幼稚園臨時雇用の先生の継続雇用を求める署名(1271名)提出と話し合い。教育委員会と。

11/9 金浦小学芸会
笠岡学園どんぐり祭

11/15(飛鳥)・11/17(白石島・北木島・真鍋島)

「みちこだより」をお届けしながら島の人たちの声を聞かせていただく。多くの人と話ことができ有意義。
真鍋島で出合った観光客の法政大学生「僕真鍋と言います。同じ名前の島がどんな所か泊まりにきてみました。」とうれしいな。



(まなベマップを持ったまなベ君と)

あしあと

11/20 県の15年度予算に向けて岡田県議と共に井笠地方振興局と話し合い。

11/29 農免道路の銀山地区三差路、信号機設置の要望を再度、地元代表の方と共に笠岡警察署へ届け、後日正式要望書を提出。

12/1 午前 公民館生涯学習発表会
バザーのお手伝い



午後 山陽高校音楽部定期演奏会

全国大会で金賞に輝いた子供たちの演奏に拍手。フランス留学から帰国の教え子にも再会、楽しいひととき。

12/3 金浦小で行われた老人会のご指導によるしめ縄づくりに参加
子供たちと共に正月かざりの用意。



「手の平でぶくのがむづかしいなー」

- ♥ 小路の路面補修(生江浜)
- ♥ 下水道工事に伴うバスの運行中止について、代替りのコースと臨時のバス停を設置していただきました。(金浦)



12/8 母親連絡会主催の教育懇談会に参加
岡山市で活躍されている甲本先生をお招きしての講演と懇談。

12/14 「公立保育所の公設民営化を考える会」
主催の学習会に参加



「上段ツキ! 一本!!」

ありがとうございました

- ♥ 雨水溝グレーチングのおさまりを良くしてもらいました。(東本町・西本町ロータリー)
- ♥ 生活相談など受け、関係方面にお願いし、善処していただきました。
- ♥ 民家の裏山急傾斜の補修(吉浜)
- ♥ 金浦小プール外堀排水溝補修(吉浜)
- ♥ 防潮堤の差し板方式を金属製のスライド方式に今年度3カ所、残りを来年度に完成予定(金浦)
- ♥ 大井公民館の入り口段差の解消(大井)

奥倉君の皆さん
お世話になりました



12/15 市政50周年干拓マラソン

久々に夫と二人で5kmを完走。
知人の娘さんが快走して入賞するなど楽しい思い出。



1/5 空手全国大会「桃太郎杯」(浦安体育館)で山陽高校の応援

男女とも団体3位、手に汗握る熱戦で、久々に興奮。
男子個人で加藤君が優勝、うれしい春のニュース。



1/6 原田毅市議と共に市内を巡って年初めの街頭演説

「くらし・平和を守ろうとしない小泉内閣、我党の支援の訴え」



◎ 夫からの一言 ◎

旧年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひ致します。
「奥さんよーがんばれとるなー」と多くの方より励ましの言葉をいただきます。その言葉に恥じないよう夫婦ともども頑張りたいと思ひます。

山陽高校教諭 樋之津(林)周明